

1. 研究目的

サレジオ高専では学年・学科を越えて参加できる学校プロジェクトという活動が行われている。プロジェクト活動に気軽に参加し、集まることができる場を「プロジェクトカフェ」と位置付けその活動を活性化させるための提案を行う。

2. 調査と分析

学生プロジェクトは 4 学科から参加することができる。今回は学校プロジェクトの一つであるデザコンを対象に、参加者にアンケートを取ったところ以下の問題が明らかになった。

- ① 学科学年問わず自由に使える教室がない。
デザコンの場合、いつも使っている教室は学科で共有できる教室なので授業が長引いたりした時は使用できなくなる。
- ② 話し合いや交流を深める為に各学科・学年が共通の事柄が必要である。
高専であるため何かを作るというのは全学科共通の意識なので作業が出来る作業台が必要である。
- ③ 他学科の意見も聞きたいという調査結果から、様々な人が利用できるように色々な場所への設置が求められる。

3. コンセプト立案

誰にでも気軽に集まる事が出来る、簡易に収納使用できる作業台

- ① オープンスペースの有効利用しているため、プロジェクトカフェとして利用しない場合は、それを収納して本来の場所に戻さないといけない。
- ② 作業台はすぐ取り出せて簡易的に使うことができる。そして必要ないときは邪魔にならない場所に片付けられる。
- ③ 作業台は誰でも組み立てられるような簡単な仕組みにして、気軽に使ってもらえるようにする。

4. デザイン展開

- ① オープンスペースへの設置・収納

プロジェクトカフェは様々な場所へ設置を想定しているが今回はその一例としてデザイン学科と情報工学科の間の 4 階の渡り廊下を対象にデザインの検討を行う。渡り廊下の収納場所

は窓と手すりの淵に収まるようにしている。

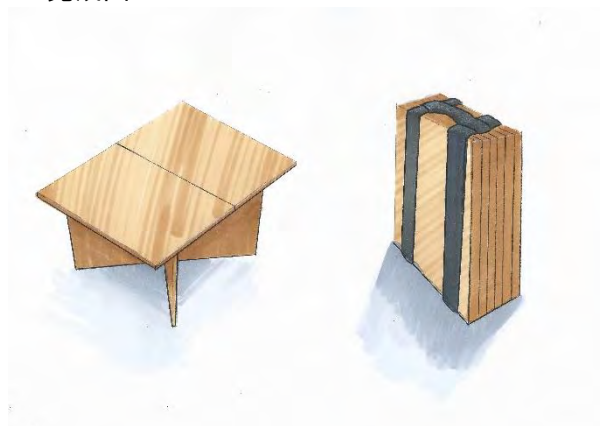
- ② 簡易な組み立て、折り畳み

作業台のパーツは天盤と脚部の 2 つのパーツで構成される。部品はすべて幅 500mm と高さ 800mm で構成されている。作業台の組み立ての際は 2 つの足のパーツを天盤の溝にはめるだけで非常に簡単に組み立てられる。

- ③ 簡易な持ち運び

同じ大きさと纏められた部品は木材でも強度と軽さを兼ね備えたシナランバーを使用している。

5. 完成図



左:展開時 右:収納時

6. 結論

研究の結果以下のことがわかった。

- ① 窓の近くに作品と収納するため窓に作品を軽くぶつけてしまうことがあった。
- ② 組み立ては問題なく出来たが、バンドの固定をしないと不安定であった。
- ③ 簡易な持ち運びするにはまだ重いという意見がありより軽量化させる必要がある。

今後に向けて、渡り廊下の他に廊下のフリースペースや購買部前など様々な場所も想定している。

文献

作業台の高さ

<http://www.hql.jp/project/funcdb2000/guideline.ver.2/data/nitijou-data01.pdf>

オープンスペース不動産用語

<http://www.livable.co.jp/yogo/description.php?n=768>